

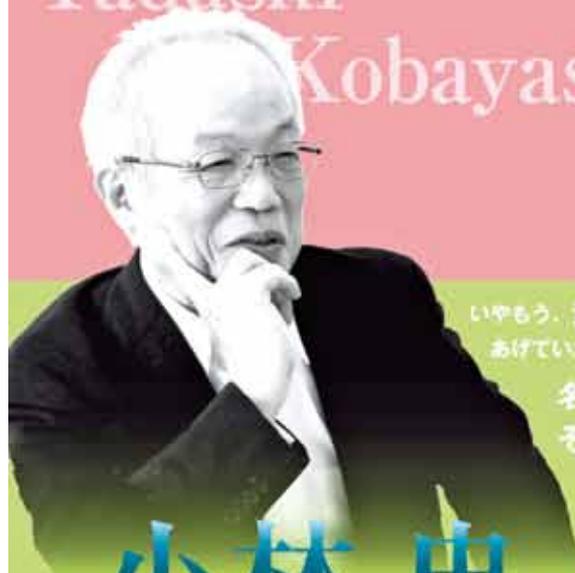
プレスリリース

千葉市美術館開館20周年記念 歴代館長が選ぶ

所蔵名品展

Tadashi

Kobayashi



小林 忠

二代館長

これぐらいのものは
日本にあんまりないんじゃないの？

もう、ご自由に選んでくださいと
言うよりいい。

いやもう、浮世絵を
あげていたらキリがない。

名品、名作が
そろそろありますよ。

Nobuo
Tsuji



辻 惟雄

初代館長

古いところはそれなりの評価がありますが、
不思議なことに現代美術も
「へえ、こんな作品も収集していたのか」
と思うぐらい、たいていあるんだよ。

Masatomo
Kawai



河合正朝

現館長

会 期 第1部 2015年4月10日(金)▷5月10日(日)

第2部 2015年5月19日(火)▷6月28日(日)

同時開催
ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画
—「マネジメントの父」が愛した日本の美—

*第1部・第2部は展示内容が異なります。

休館日 4月27日(月)、6月1日(月)*展示替を行います。
開館時間 10時—18時(入場は17時30分まで)
観覧料 金・土曜日 10時—20時(入場は19時30分まで)
一般 200円(160円) 大学生 150円(120円)

※()内は団体30名以上
※千葉県在住の65歳以上の方、小・中学生、高校生。
※および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
※「ドロッカー・コレクション 珠玉の水墨画」(5/19—6/28)入場者は無料

主催 千葉市美術館

千葉市美術館

Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

TEL.043-221-2311 <http://www.cma-net.jp>

展覧会概要

今年、千葉市美術館は開館20年を迎えます。「まだ20年」、「もう20年」、みなさんはどのようにお感じになるでしょうか。もっと歴史のある美術館も、たくさんあります。それでも、これまで千葉市美術館を応援して下さったみなさんに、わたしたちの美術館のこれまであゆみをご覧いただきたく、当館歴代の館長を中心に選んだ所蔵名品展を開催します。

美術館の収蔵品、コレクションはその館にとってさまざまな活動のみなもとです。今回展示する作品は、これまでの千葉市美術館のあゆみそのものであり、同時にこれからの活動の指針でもあります。ジャンルは近世から現代までさまざま。ぜひご覧下さい。

会期：第1部 4月10日（金）－5月10日（日）／第2部 5月19日（火）－6月28日（日）※第1部・第2部は展示内容が異なります。

開館時間：10:00～18:00 金・土曜日 10:00～20:00（入場受付は閉館の30分前まで）

休館日：4月27日（月）、6月1日（月）＊展示替を行います。

観覧料：一般200円（160円）大学生150円（120円）

※（ ）内は団体30名以上 ※千葉県内在住の65歳以上の方、小・中学生、高校生、および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

見どころ

◆ 歴代の名物館長たちが選ぶ、知られざる名品

この20年の間に、千葉市美術館では3人の館長を迎えています。

初代館長に名著『奇想の系譜』にて伊藤若冲や曾我蕭白らの絵師をスターダムに押し上げた辻惟雄、2代目館長に浮世絵の大家として知られる小林忠が就任しました。現在の3代目館長は海北友松をはじめとする水墨画研究を専門とする河合正朝です。

この個性豊かな歴代館長が、千葉市美術館のコレクションから優品を選びました。意外と知られていない、所蔵作品の数々をご紹介します。



◆ 多彩な所蔵作品

「千葉市美術館といえば浮世絵」と評されるほど、国内でも有数の浮世絵コレクション。喜多川歌麿、葛飾北斎、写楽といったスター絵師から溪斎英泉や歌川国芳といった個性派の絵師まで、版画だけでなく肉筆画もご紹介。また、これまで伊藤若冲や曾我蕭白、琳派といった江戸絵画を紹介してきた当館の地盤である、近世絵画のコレクションも必見です。このように近世の日本美術が目ざされがちですが、実は現代美術も豊富にコレクションしています。近年国際的に評価の高い、草間彌生や白髪一雄、杉本博司など戦後の現代美術を代表する作品をご覧いただけます。

普段は企画展のかけに隠れがちな所蔵作品ですが、国内外の美術館から出品依頼を受けるなど、そのクオリティは折り紙付きです。所蔵作品展のため観覧料もお得なこの機会に是非ご覧ください。

歴代館長略歴



辻 惟雄

1932年愛知県生まれ。東北大学文学部教授、東京大学文学部教授、千葉市美術館館長、『国華』主幹、多摩美術大学学長等を経て、現在はMIHO MUSEUM館長、東京大学、多摩美術大学名誉教授。専門は日本近世絵画。主な著書に『奇想の系譜―又兵衛、国芳』（1970年美術出版社）、『日本美術の歴史』（2005年東京大学出版会）など。



小林 忠

1941年東京都生まれ。東京国立博物館絵画室員、名古屋大学助教授、学習院大学文学部教授、千葉市美術館館長等を経て、現在は、岡田美術館館長、学習院大学名誉教授、『国華』主幹、国際浮世絵学会会長。専門は浮世絵をはじめとする日本近世絵画。主な著書に『江戸絵画史論』（1983年瑠璃書房）、『江戸浮世絵を読む』（1998年ベリかん社）など。



河合正朝

1941年東京都生まれ。慶応義塾大学教授を経て、現在は千葉市美術館館長および、慶応義塾大学名誉教授。専門は室町～江戸時代の絵画。特に海北友松など近世の水墨画を中心に研究。主な著書に『日本美術絵画全集11 友松／等顔』（1978年集英社）、『日本水墨名品図譜 第三巻 雪舟と友松』（1992年毎日新聞社）など。

同時開催

「ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画 —「マネジメントの父」が愛した日本の美—

5月19日(火)～6月28日(日)

世界の企業人に多大な影響を与え、「マネジメントの父」といわれる経営学者のピーター・F・ドラッカー(1909-2005)は、日本絵画の個性的な収集家でもありました。本展では、室町時代的水墨画を中心としたこのコレクションから初公開作品を含む111点を紹介します。



雪村周継 《月夜独釣図》 室町時代 ドラッカー・コレクション

関連企画

記念シンポジウム

「歴代館長よもやま話」

日時：4月25日(土) 14:00より(13:30開場)

会場：千葉市民会館大ホール(JR千葉駅東口より徒歩7分)

司会：河野元昭(京都美術工芸大学学長)

パネラー：辻 惟雄(MIHO MUSEUM 館長・初代当館館長) / 小林 忠(岡田美術館館長・二代当館館長) / 河合正朝(現当館館長)

*聴講無料

**当日ご参加の皆様に、記念品引換券を配布します。(美術館にて記念品と引換・展覧会会期中有効)

記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

4月10日(金)/14:00より(1時間程度)/10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

交通案内

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 / Tel. 043-221-2311(代) / FAX. 043-221-2316

<http://www.cma-net.jp>

◎ JR千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば⑦より大学病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分

・千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分

◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎千葉市中央区役所と同じ建物です

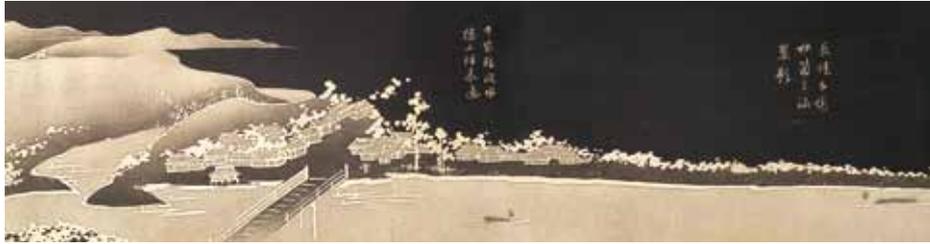
◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共交通機関をご利用ください



千葉市美術館 プレスリリース

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

千葉市美術館開館20周年記念 歴代館長が選ぶ 所蔵名品展



1. 伊藤若冲 《乗興舟》 明和4年(1767)頃
* 展示期間: 4月10日-26日



2. 喜多川歌麿 《納涼美人図》
寛政6-7年(1794-95)頃
* 展示期間: 6月2日-28日



3. 鈴木其一 《芒野図屏風》
天保(1830-44)後期~嘉永期(1848-54)
* 展示期間: 4月28日-5月10日



4. 曾我蕭白 《虎溪三笑図》
安永期(1772-81)頃
* 展示期間: 4月10日-26日



5. 葛飾北斎
《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》
天保2-4年(1831-33)頃
* 展示期間: 5月19日-31日



6. 白髪一雄 《天英星小李廣》
1961年
* 展示期間: 4月10日-26日



7. 杉本博司
《South Pacific Ocean, Maraenui》
1990年 © Hiroshi Sugimoto
* 展示期間: 5月19日-31日

「千葉県美術館開館20周年記念 歴代館長が選ぶ 所蔵名品展」
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉県美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

貴社名:	媒体名:
ご担当者名:	発行予定日:
TEL:	発行部数:
FAX:	定価:
Email:	掲載予定コーナー名等:
画像到着希望日: 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例:5cm 四方、など)</small> :

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 伊藤若冲 《乗興舟》 明和4年(1767)頃
2. 喜多川歌麿 《納涼美人図》 寛政6 - 7年(1794 - 95)頃
3. 鈴木其一 《芒野図屏風》 天保(1830 -44)後期～嘉永期(1848 -54)
4. 曾我蕭白 《虎溪三笑図》 安永期(1772 -81)頃
5. 葛飾北斎 《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》 天保2 - 4年(1831-1833)頃
6. 白髪一雄 《天英星小李廣》 1961年
7. 杉本博司 《South Pacific Ocean,Maraenui》 1990年 © Hiroshi Sugimoto

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

5組 10名様分 希望します。
(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所:〒

問い合わせ先

千葉県美術館 〒260-8733 千葉県中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

担当学芸員: 藁科英也

広報担当: 磯野 愛



千葉市美術館開館20周年記念 歴代館長が選ぶ
所蔵名品展

記者レクチャー参加申込書

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。
スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

4月10日(金) 14:00より(1時間程度) 10階会議室にて

*その後、8・7階展示室へご案内いたします

参加ご希望の方は下記にご記入の上、こちらの用紙を
FAX(043-221-2316) までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail address

問い合わせ先

広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)

千葉市美術館
〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <http://www.ccma-net.jp/>

2015年度 企画展のご案内

2015年、開館20周年をむかえる千葉市美術館。さらにパワーアップした企画展にぜひご注目ください。

*都合により予告なく展覧会名、内容の一部・会期が変更となる場合がありますので予めご了承ください。

開館20周年記念「ドラッカー・コレクション 珠玉の水墨画 —「マネジメントの父」が愛した日本の美—



5月19日(火)～6月28日(日)

世界の企業人に多大な影響を与え、「マネジメントの父」と言われる経営学者のピーター・ドラッカー（1909～2005）は、日本絵画の個性的な収集家であった。30年以上かけて形成され、室町時代の水墨画を中心としたこのコレクションから約110点の作品と、ゆかりの資料をあわせて展示。今なぜまたドラッカーなのか、深い洞察と先見性にすぐれたドラッカーがみた日本を、コレクションを通じて探る。

◀ 雪村周継 《月夜独釣図》 室町時代 ドラッカー・コレクション

開館20周年記念「没後20年 ルーシー・リー展」



7月7日(火)～8月30日(日)

イギリスのスタジオ・ポタリーを代表する陶芸家で、近年日本でも非常に人気が高まり、国内にも多くのコレクターや愛好家がいるルーシー・リー（1902-95）の回顧展。文化が成熟した時期のウィーンに生まれ、近代陶芸の興隆期にイギリスへ渡ったルーシー・リーの作品は、モダンデザインの思潮を色濃く反映したフォルムで、きわめてシンプルかつ清潔であり、素材と技法に結びついた動感が魅力的とされる。日本人から見たルーシー・リーを一つの視点として定め、来館者が陶芸に親しむ機会としたい。

◀ ルーシー・リー 《スパイラル文花器》 1980年頃 個人蔵 Estate of the artist 撮影：大屋孝雄

開館20周年記念「^{からえ}唐画もん ^{ぶぜん ろうえん}武禅に閻苑、若冲も」



9月8日(火)～10月18日(日)

船頭から、絵師として名を上げ、光を意識した幻想的な作品やオランダ絵画の写しなど、一風変わった作品を残す墨江武禅（^{すけのえ ぶぜん} 1734～1807）、華麗な花鳥画、荒々しく奇怪な表現の水墨作品、また風刺のきいた風俗図が知られる林閻苑（^{りんごうえん} 生没年不詳、1770～1780年頃に活動）。江戸時代中期の大坂で活動した個性的な絵師、墨江武禅と林閻苑を、同時代の大阪や京都で活躍した伊藤若冲ら個性派の絵師たちと合わせて紹介。

◀ 墨江武禅 《雪中山水図》 個人蔵

開館20周年記念「杉本博司展」



10月27日(火)～12月23日(水・祝)

開館記念展「Tranquility — 静謐」の招待作家だった杉本博司は、この20年で世界を代表する写真家へと飛躍。「静謐展」のとき展示された「海景」のシリーズと、自ら収集した古美術作品を中心とした新作インスタレーションを中心に展示する。

◀ 杉本博司 《South Pacific Ocean, Maraenui》1990年 千葉市美術館蔵 © Hiroshi Sugimoto

開館20周年記念「初期浮世絵展 — 筆の力・版の力 —



2016年1月9日(土)～2月28日(日)

浮世絵は、なぜ、どのように生まれたのか。浮世絵を活動の中心に据えて来た千葉市美術館ならではの視点から、浮世絵の発生から展開まで、大英博物館をはじめとする海外からの里帰り品を含め、初期浮世絵の名品150点余りを通して明らかにする。初期浮世絵の総合的な展覧会は、英国ロイヤルアカデミー・オブ・アーツで、2002年に開催されて以来となる。

◀ 鳥居清広 《初代中村富十郎の地紙売》 宝暦2～8年（1752-58）千葉市美術館蔵